

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇「PVC Design Award 2016」展示会

—東京・名古屋・大阪・福岡の展示会開催—名古屋テレビでも紹介—

PVC Design Award 事務局

## ■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(23)

木下 清隆

## ■編集後記

## ■トピックス

◇「PVC Design Award 2016」展示会

—東京・名古屋・大阪・福岡の展示会開催—名古屋テレビでも紹介—

PVC Design Award 事務局

昨年11月25日の「PVC Design Award 2016」の各賞発表・表彰式に続いて、各地で受賞作品・製品を展示し、多くの方々に作品を見ていただきました。東京の展示会は、本メルマガ [No.575\(12/15\)](#) でご紹介しました通り、GOOD DESIGN Marunouchi で開催され、それを皮切りに、今年1月24-25日の2日間大阪地区のメルカート会館、1月27日に名古屋地区でクリエイティブビジネススペースコード（ナディアパーク 4F）、最後に2月2日に九州地区として福岡市の天神・イムズB1で開催しました。これら3会場でデザイナー、主催団体関係者など総勢330名の方々に来場いただき、今年も盛況のうちに展示会を終えることができました。



大阪会場の様子



名古屋テレビの取材の様子

各会場では、10点の受賞作品の他、約50点の製品応募作品、256点のデザイン提案を展示しました。

大阪では、長田にあるビニール団地と呼ばれる塩ビの卸の会社が集まっている一角にあるメルカート会館で実施し、近くの塩ビ関連会社の社員の皆様、受賞された方々に来場いただきました。特に、作品を生で見ていただく機会の少ない主催団体の企業の方々が多く来場され、作品を丁寧にみていただき、アワードへの参加意識が高まるのが感じられました。

名古屋の展示会では、名古屋テレビ（テレビ朝日系列）の取材を受け、同日夕方からの情報番組「UP!」の中で「変身塩化ビニルのアイデア商品（自由に加工で様々な形に）」と題して放送されました。放送は2分程度にまとめられ、大賞の「とびだすおふろ」や優秀賞の「amenity pocket」など受賞作品と多数の展示作品が紹介されました。

福岡では、マッチングで加工メーカーと一緒に作品を作られたデザイナーが来られ、展示された作品を一つ一つ丁寧に細かく見ておられる姿が印象的でした。また、今年も九州経済産業局から高橋局長が来場され、作品を一つ一つ熱心にご覧になりアイデアの多様さに驚かれておられました。



福岡会場の様子

今年は、塩ビの様々なアイデア作品がテレビでも紹介されるなど PVC Design Award の広がりが期待されます。このアワードを通じて塩ビ業界が益々元気になり、これを契機に新しい塩ビ製品が多く生まれることを関係者一同願っています。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（23）

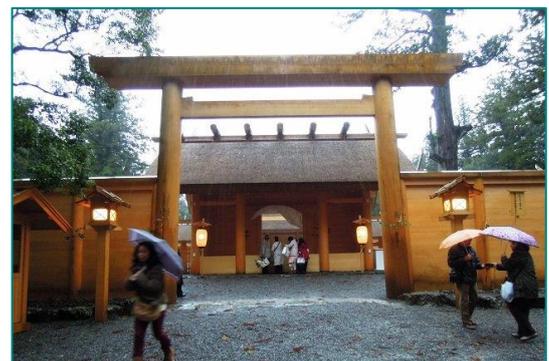
木下 清隆

<前回とのつながり>

前回、伊勢氏について詳しく調べ、彼等の祖が皇室に繋がることを明らかにした。今回は、度会氏について調べるが、結果的に伊勢氏と度会氏とは、出雲系であることが明らかとなる。

#### 【度会氏】

度会氏の祖が大若子命であることは、彼らがそうだと主張していることから、間違いの無いところであるが、天日別命が彼らの祖であるのか否かは明確ではない。もし、そうであれば度会氏は伊勢国造家と同族ということになるが、そのようなことを窺わせるような記述は『伊勢国風土記』には全く無い。しかし、先述したように『倭姫命世記』に、「一書曰」として「大若子命の先祖天日別命」と明確に述べられていることから、度会氏がこの時期、天日別命を自分達の祖と考えていたことは確かなようである。このような系譜が鎌倉時代の『豊受太神宮禰宜補任次第』にまで記載されていることは、度会氏はその当時までそのように考えていたことになる。



伊勢神宮・外宮（豊受大神宮）

このことを、伊勢氏との関係で見たとき、度会氏が天日別命を自分達の祖と云い出した時に、伊勢氏が何も異議を唱えていないようにみえることは注目される。これまでの検討から、天日別命は伊勢氏が自らの祖として創作したものであると結論したが、その天日別命

を他の無関係の氏族が我等の祖であると言い出せば、これに異議するのは当然だからである。このような異議申立てが無いとすれば、両者の間に何かの関係があったと考えられることになる。ところが度会氏は最後まで伊勢氏を名乗っていない。このことは彼らが伊勢氏とは異なる氏族であったことを示しているといえよう。それでいて天日別命を祖として共有しており、このことから度会氏は伊勢氏に服属していた可能性が出てくることになる。

もし、天日別命を度会氏が自ら創作した祖であるとするなら、『倭姫命世記』に一書目といった形で後からの挿入文にするはずはなく、世記の本文の中で活躍させるのが当然のはずである。更に、世記ではその最後に「裏書」の形で天日別命の活躍が語られている。これも明らかに世記完成後、即ち、『太神宮本記』完成後に天日別命のことが知られ、度会氏が自分達もこの命に連なる氏族として、本記に追加したとしか考えられないことになる。更に、伊勢氏はこれまでに検討したように、皇室にも繋がるような伊勢地方の名族である。その彼らが、度会氏が創作したような神を自分達の祖として祭祀し、そのことを『新撰姓氏録』に記載させることなど、普通では考えられないことである。従って、天日別命を創作したのは伊勢氏であって度会氏ではないことになる。

度会氏が天日別命を一時的に自分達の祖として取り入れたと考えれば、その後のこの命の取り扱い方が理解し易くなる。それは十三世紀初頭に作成されたと考えられている『豊受太神宮禰宜補任次第』での天日別命の取り扱いである。この書は冒頭に天御中主尊から大若子命までの系譜が示されているが、先ず、度会氏の祖として登場するのは「天牟羅雲命」である。この命は天御中主尊の十二世の孫であることが示され、十二名の個別名称が全部列記されている。次が大若子命である。この命は天牟羅雲命の七世の孫であることが示されるが、その起点となっているのは天牟羅雲命である。天御中主尊から大若子命までの十九世の系譜の中に十四世として天日別命も記載されている。

しかし、この長い系譜の節目をなす重要な命は、天牟羅雲命であって天日別命ではない。『倭姫命世記』の中では挿入文にしてまで天日別命を取り入れておきながらである。更に、世記の中では天牟羅雲命など何処にも登場していないのである。このように見てくると度会氏はなぜ天牟羅雲命に乗り換えたのかが問題として出てくる。その理由は明確ではないが、恐らく『先代旧事本紀』が大きな理由であろうと考えられる。この中の「天神本紀」に「天牟良雲命は度会神主等の祖なり」と出てくるからである。この『先代旧事本紀』の序文には「大臣蘇我馬子宿禰等が勅を奉じて修撰したものであり、この先代旧事本紀は聖徳太子が且つて撰された所のものである。」と記されている。このことから、本紀は「上宮太子所撰」として成立間もない頃から、我国最古の史書として尊重されるようになったようである。更に中世においては伊勢神道家の中で特に尊重されたとされている。

このように見てくると、『豊受太神宮禰宜補任次第』のなかで、天牟羅雲命が急浮上し、天日別命が地盤沈下したことになる。しかし、このような状況の中でも大若子命だけは不動の地位を保っている。このことは、度会氏にとって大若子命は間違いなく彼らの祖ではあっても、天日別命は借り物であったことを示していることになる。

更に十三世紀後葉になって出された『伊勢二所皇太神宮神名秘書』には、

「弟若子命は神皇産靈神かむみむすひの六世の孫、天牟羅雲命の八世の孫なり」

という驚くべきことが述べられている。ここの弟若子とは大若子命の弟のことである。

この時代になると弟若子が有名になっていたらしい。この『神名秘書』は外宮の禰宜度会行忠が、弘安八年(一二八五)に亀山天皇への奏覧のために撰進したとされるもので、ここには度会氏の遠祖は、天御中主尊ではなく神皇産霊神であることが示されている。この神皇産霊神は、古事記では神産巢日神かむむすひとして天御中主尊と共に登場する神であるが、出雲系の神々と係わりが深く、出雲の神として知られる神魂神かもすの別名ではないかと思われる神である。この神皇産霊神が出雲の神とすると、度会氏は間違いなく出雲系の氏族であることになる。

では、なぜ彼らは鎌倉時代になってこんなことを主張するようになったのだろうか。この主張が単なる思い付きでないことは、『神名秘書』が天皇奏覧のために撰進されたことから分かる。彼らは数百年の長きに亘って自分達の素性を韜晦して来たのではなかろうか。それがやっとな鎌倉時代になってその呪縛から解き放たれ、時の天皇に対して、度会氏に伝承されていた彼らの本当の出自を述べる決心がついたのではなかろうか。このような彼らの出自と、伊勢氏の先祖と見られる伊勢津彦が、出雲系であるとみなされていることと合わせると、度会氏と伊勢氏はその遠祖が同一の出雲に突き当たることになる。このように考えると彼らは同族だったことになる。

では度会氏は、天日別命に対してなぜ粗略になっていったのであろうか。それは、伊勢氏が中臣氏に接近したからではないかと考えられる。持統朝になって度会氏への処遇が急変してしまったことについては、当然何か原因があるわけで、それが何であるかは記録として何も残されていない。何れにしても、内宮の禰宜が荒木田氏に渡ったことは、度会氏にとっては許し難いことであり、このような決定に中臣氏が関わっていたと見られる以上、そのような中臣氏を度会氏は許せなかったはずである。

外宮の禰宜のみに格下げされたことで、度会氏は今までの功績も誇りも、将来への夢も一気に吹っ飛んでしまった。このような悲劇をもたらしたのは持統天皇であるが、彼等はその怒りを天皇に向けるわけにも行かず、中臣氏へ向けたと考えられる。その中臣氏に伊勢氏は近づいたのである。それは度会氏にとって許せない行為だったに違いない。一旦、天日別命を担いだ手前、外宮の禰宜としての公的な立場から、手のひらを返すように天日別命を下ろすことは出来なかったのであろう。しかし、彼らは『神名秘書』の中で、終に天日別命の痕跡を消し去った。このように考えてくると、度会氏と伊勢氏とは同根ではあるが、長い歴史の中で互いの立場は大きく異なってしまったといえよう。

これまでの天日別命をめぐる検討内容をまとめると次のようになろう。

- 天日別命は、伊勢氏が伊勢津彦に替わる彼らの祖として創作したものである。度会氏もこの命を、自分達の祖として一時期取り入れたが、それは伊勢氏と度会氏とが同族だったからである。伊勢氏にとって事実上の祖である伊勢津彦と、度会氏が『神名秘書』のなかで明かしたその遠祖、神皇産霊神が共に出雲系と見られることから、両氏は出雲系の氏族であると考えられる。その後、伊勢氏が中臣氏に近づいたことからその関係が悪化し、両氏は無縁の氏族のような関係となった。—

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

空港にコード番号がついているのはご存じでしょうか。飛行機を使って荷物を預けた人のスーツケースについているタグに印字されているアルファベット3文字です。成田なら「NRT」、羽田なら「HND」です。海外なら、「HNL」がホノルル、「JKT」がジャカルタ、「SHA」なら上海虹橋です。古くてメジャーな空港は、略号を見ただけで、どの空港か想像つきますね。

先日、ネットでPVC関係の調べ物をしているときに、「PVC」という記号の空港があることを知りました。米国マサチューセッツ州にあるProvincetown空港とのこと。このPVC空港は、ケープコッド国立公園内にあり、ボストンから飛行機で30分程の避暑地のようです。きっとロブスターがおいしいことでしょう。(JINJIN)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)